

令和5年度 2学年

# ツラバス

科目内容紹介



長野県蘇南高等学校

総合学科

2年 組 番 氏名

教科	国語	科目名	論理国語	年次	2年	単位数	2
履修区分	<input type="checkbox"/> 必履修 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択		選択条件	文理系列を選択している生徒全員			
対象者	<input checked="" type="checkbox"/> 四大文系 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 四大理系	<input checked="" type="checkbox"/> 教養	<input checked="" type="checkbox"/> 就職準備	<input checked="" type="checkbox"/> 文理	<input type="checkbox"/> 経ビ	<input type="checkbox"/> もの	<input type="checkbox"/> 全員

学習目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を身につける。論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。						
目指す資質・能力	知識・技能	文章を読んで、構成、展開、要旨、情景、心情などを的確にとらえ、その論理性を評価し、表現を味わうことを通して人間と世界についての豊かな知識と技能を身につける。					
	思考・判断・表現	文章を読んで批評することを通して、人間、社会、自然などについて知識を活用して思考する力を身につける。					
	主体的に学習に取り組む態度	言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、言葉を通して他者をリスペクトして協働する力を身につける。					
使用教科書	新編 論理国語(大修館書店)		使用副教材	<ul style="list-style-type: none"> <li>・級別漢字の総仕上げ(中部日本教育分科会)</li> <li>・LT現代文1(浜島書店)</li> <li>・新訂総合国語便覧(第一学習社)</li> </ul>			

年間学習計画	前 期	時間	後 期	時間
	知の登山、知の水路 「論理的な人」とはどういう人か	5 4	5 4	考える葦であり続ける 根拠をふまえて主張を書こう 構成を考えて書こう 反論を想定して書こう 文章を磨き上げよう 量の時代から質の時代へ
ウサギの耳はなぜ長い 記号的メディアと物理的メディア	4 5	4 5		第4回考査
対話の精神 デジタル地図から見える世界 人工の自然－科学技術時代の今を生きるために	6 6 6	6 6 6	紙の本はなくなる 情報化と紙の本の行方 テーマを決め、問を立てよう 情報を収集しよう 情報を整理しよう レポートをまとめよう	5 5 1 1 1 3
	第3回考査			学年末考査
	合 計			70

履修要件	1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。	
修得要件	1 上記 履修要件の項目を満たすこと。 2 定期考査の得点の合計、もしくは、定期考査の得点と提出物点の合計が平均点の半分以上であること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。	
評価の方法	知識・技能	定期考査(70%)・課題提出(30%)による。
	思考・判断・表現	定期考査・課題提出およびアセスメント(振り返りシート)による。
	主体的に学習に取り組む態度	出席状況、授業への取り組みおよびアセスメント(振り返りシート)による。
学習にあたっての注意とアドバイス	毎時間、漢字小テストを実施するので、予習・復習をきちんと行う。 教科書の文章は授業でも朗読するが、自分で何度も読んで語彙を身につける。 わからない単語は辞書で調べ、語彙を増やす。 黒板の板書をきちんとノートに取り、復習する。特に文法事項に関してよく理解し、課題などで繰り返し練習して身に付けるようにする。	

教科	国語	科目名	現代文基礎	年次	2年	単位数	2
履修区分	<input type="checkbox"/> 必履修 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択		選択条件	経営ビジネス系列・ものづくり系列を選択している生徒全員			
対象者	<input checked="" type="checkbox"/> 四大文系 ・ <input type="checkbox"/> 四大理系	<input checked="" type="checkbox"/> 教養 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 就職準備	<input type="checkbox"/> 文理 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 経ビ ・ <input checked="" type="checkbox"/> もの ・ <input type="checkbox"/> 全員				

学習目標	近代以降の様々な文章を読むことによって、我が国の言語文化に対する理解を深め、生涯にわたって読書に親しみ、国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。						
目指す資質・能力	知識・技能	文章特有の表現を味わったり、語句の用いられ方について理解を深めたりすることを通して人間と世界についての豊かな知識と技能を身につける。					
	思考・判断・表現	文章に表れたものの見方、感じ方、考え方を読み取り、人間、社会、自然などについて、知識を活用して思考する力を身につける。					
	主体的に学習に取り組む態度	言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、言葉を通して他者をリスペクトして協働する力を身につける。					
使用教科書	・LT現代文1(浜島書店)		使用副教材	・級別漢字の総仕上げ(中部日本教育分科会) ・ビジュアルカラー国語便覧(第一学習社)			

年間学習計画	前 期	時間	後 期	時間
	「わたし的には」の壁 何のためのルール 無表情なキャラクター 便利なものは必要ない  豆腐造り 植物がしたこと 見えない心に想いをはせる 暈の文化  梅雨の終わり 直立せよ一行の詩 モネの美しい色彩の謎 スポーツの深い世界 調律師の才能 学びからの逃走	10  10  15	第1回考査  第2回考査  第3回考査	世界の地平に立つスポーツ 抽象化して考える 表紙からのメッセージ 父娘ピクニック 「相手をしてくれる」メディア 大沢崩れ  子どもの哲学 「悲しみ」 秋の夜 言語における規範と創造 花も紅葉も… 複数の文章を読み比べる 鑑賞文における引用と主張 複数の文章を関連付けて読む
	合 計			70

履修要件	1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。	
修得要件	1 上記 履修要件の項目を満たすこと。 2 定期考査の得点の合計、もしくは、定期考査の得点と提出物点の合計が平均点の半分以上であること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。	
評価の方法	知識・技能	定期考査(70%)・課題提出(30%)による。
	思考・判断・表現	定期考査・課題提出およびアセスメント(振り返りシート)による。
	主体的に学習に取り組む態度	出席状況、授業への取り組みおよびアセスメント(振り返りシート)による。
学習にあたっての注意とアドバイス	先生の話をしっかり聞き、ノートをきちんと取る。特に文法事項に関してよく理解し、課題などで繰り返し練習して身に付けるようにする。 わからない単語は辞書で調べるなど、語彙を増やす。 声に出して文章を読む。 小説や新聞等、身近な文章を活用することも、学力向上に有効。	

教科	国語	科目名	文学国語	年次	2年	単位数	2
履修区分	<input type="checkbox"/> 必履修 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択		選択条件	文理系列選択者で、私立四年制大学文系を志望する者。			
対象者	<input checked="" type="checkbox"/> 四大文系 ・ <input type="checkbox"/> 四大理系	<input checked="" type="checkbox"/> 教養 ・ <input type="checkbox"/> 就職準備	<input checked="" type="checkbox"/> 文理 ・ <input type="checkbox"/> 経ビ ・ <input type="checkbox"/> もの ・ <input type="checkbox"/> 全員				

学習目標	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、言語文化に対する理解を深めることができるようにする。深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。						
目指す資質・能力	知識・技能	文章を読んで、構成、展開、要旨、情景、心情などを的確にとらえ、その論理性を評価し、表現を味わうことを通して人間と世界についての豊かな知識と技能を身につける。					
	思考・判断・表現	文章を読んで批評することを通して、人間、社会、自然などについて知識を活用して思考する力を身につける。					
	主体的に学習に取り組む態度	言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、言葉を通して他者をリスペクトして協働する力を身につける。					
使用教科書	高等学校 文学国語(第一学習社)		使用副教材	<ul style="list-style-type: none"> <li>・級別漢字の総仕上げ(中部日本教育分科会)</li> <li>・LT現代文1(浜島書店)</li> <li>・新訂総合国語便覧(第一学習社)</li> </ul>			

年間学習計画	前 期	時間	後 期	時間
	山月記 近代の詩	6 4	6 4	フェルメールの技を読む こころ
	第1回考査			
檸檬 旅する本	6 4	6 4	葉桜と魔笛 バグダッドの靴磨き	7 5
	第2回考査		わたしが一番きれいだったとき	2
富嶽百景 花のいざない	6 6	6 6	死んだ男の残したものは	1
真珠の耳飾りの少女	6	6	春－イラクの少女シャミラに	1
	第3回考査		学年末考査	
			合 計	70

履修要件	1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。	
修得要件	1 上記 履修要件の項目を満たすこと。 2 定期考査の得点の合計、もしくは、定期考査の得点と提出物点の合計が平均点の半分以上であること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。	
評価の方法	知識・技能	定期考査(70%)・課題提出(30%)による。
	思考・判断・表現	定期考査・課題提出およびアセスメント(振り返りシート)による。
	主体的に学習に取り組む態度	出席状況、授業への取り組みおよびアセスメント(振り返りシート)による。
学習にあたっての注意とアドバイス	毎時間、漢字小テストを実施するので、予習・復習をきちんと行う。 教科書の文章は授業でも朗読するが、自分で何度も読んで語彙を身につける。 わからない単語は辞書で調べ、語彙を増やす。 黒板の板書をきちんとノートに取り、復習する。特に文法事項に関してよく理解し、課題などで繰り返し練習して身に付けるようにする。	

教科	国語	科目名	古典探究(2年)	年次	2年	単位数	2
履修区分	<input type="checkbox"/> 必履修 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択		選択条件	四年制大学への進学を志望している者は、選択することが望ましい。			
対象者	<input checked="" type="checkbox"/> 四大文系 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 四大理系	<input type="checkbox"/> 教養	<input type="checkbox"/> 就職準備	<input checked="" type="checkbox"/> 文理	<input type="checkbox"/> 経ビ	<input type="checkbox"/> もの	<input type="checkbox"/> 全員

学習目標	社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。古典などを通して先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。						
目指す資質・能力	知識・技能	人間と世界についての豊かな知識と技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深める力を身につける。					
	思考・判断・表現	古典を通して先人のものの見方、感じ方、考え方と関わるなかで、論理的に考え、知識を活用して思考する力を身につける。					
	主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して未来の自分を創造する力を身につける。					
使用教科書	高等学校 精選古典探究(第一学習社)	使用副教材	・新修 古典文法 二訂版(京都書房) ・新訂総合国語便覧(第一学習社)				

	前 期		時間	後 期		時間
	年間学習計画	徒然草		10	平家物語	
		第1回考査			第4回考査	
伊勢物語			15	奥の細道		15
		第2回考査			学年末考査	
	方丈記		15			
		第3回考査				
	合 計					70

履修要件	1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。	
修得要件	1 上記 履修要件の項目を満たすこと。 2 定期考査の得点の合計、もしくは、定期考査の得点と提出物点の合計が平均点の半分以上であること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。	
評価の方法	知識・技能	定期考査(70%)・課題提出(30%)による。
	思考・判断・表現	定期考査・課題提出およびアセスメント(振り返りシート)による。
	主体的に学習に取り組む態度	出席状況、授業への取り組みおよびアセスメント(振り返りシート)による。
学習にあたっての注意とアドバイス	先生の話を聞き、ノートをきちんと取る。 知っている言葉の語彙を増やす。 声に出して文章を読む。 予習・復習をする。	

教科	公民	科目名	公共	年次	2年	単位数	2
履修区分	<input checked="" type="checkbox"/> 必履修 ・ <input type="checkbox"/> 選択		選択条件				
対象者	<input type="checkbox"/> 四大文系 ・ <input type="checkbox"/> 四大理系		<input type="checkbox"/> 教養 ・ <input type="checkbox"/> 就職準備	<input type="checkbox"/> 文理 ・ <input type="checkbox"/> 経ビ ・ <input type="checkbox"/> もの		<input checked="" type="checkbox"/> 全員	

学習目標	人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。					
目指す資質・能力	知識・技能	現代の諸課題を捉え考察し、概念や理論について理解するとともに、諸資料から、人間と世界についての豊かな知識と技能を身に付ける。				
	思考・判断・表現	現実の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方を養い、自ら問いをたてて探究する力をつける。				
	主体的に学習に取り組む態度	よりよい社会の実現を視野に、学んだことが未来につながることを創造する力をつける。				
使用教科書	公共（実教出版）		使用副教材	ニュービジョン公共（浜島書店）		

年間学習計画	前期	時間	後期	時間
	第1部 公共の扉 第1章 社会を作る私たち 第2章 人間としてよく生きる 第3章 他者とともに生きる <b>第1回考査</b>  第4章 民主社会の倫理 第5章 民主国家における基本原理 <b>第2回考査</b>	20	2 現代の経済社会と国民生活 第1章 現代の経済社会 第2章 日本経済の特質と国民生活 <b>第4回考査</b>  3 国際社会と人類の課題 第1章 国際政治の動向と課題 第2章 国際経済の動向と課題	15    15
第2部 よりよい社会の形成に参加する私たち 1 現代の民主政治と日本国憲法 第1章 日本国憲法の基本的性格 <b>第3回考査</b> 第2章 日本の政治機構と政治参加	15	第3部 持続可能な社会づくりの主体となる私たち <b>学年末考査</b>	5	
<b>合 計</b>			70	

履修要件	1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。		
修得要件	1 上記 履修要件の項目を満たすこと。 2 実施するすべての定期考査を受験し、課題等の提出を期限内にすること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。		
評価の方法	知識・技能	定期考査・課題提出による。	
	思考・判断・表現	定期考査・課題提出やアセスメント(振り返りシート)やルーブリックによる。	
	主体的に学習に取り組む態度	出席状況、授業への取り組みやアセスメント(振り返りシート)やルーブリックによる。	
学習にあたっての注意とアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・欠席をせず、毎時間の授業を大切にすること。</li> <li>・世の中で起きていることに興味を持ち、自ら知りたいという積極性を大事にすること。</li> <li>・新聞やニュースを見るようにすること。</li> </ul>		

教科	地理歴史	科目名	日本史探究	年次	2年	単位数	2
履修区分	<input type="checkbox"/> 必修・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択		選択条件				
対象者	<input checked="" type="checkbox"/> 四大文系・ <input type="checkbox"/> 四大理系・ <input type="checkbox"/> 教養・ <input type="checkbox"/> 就職準備		<input checked="" type="checkbox"/> 文理・ <input type="checkbox"/> 経ビ・ <input type="checkbox"/> もの・ <input type="checkbox"/> 全員				

学習目標	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。						
目指す資質・能力	知識・技能	我が国の歴史の諸事象について、様々な資料などと関連づけながら総合的に理解し、我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめられる力。					
	思考・判断・表現	我が国の歴史事象の意味や意義などを、現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察し、歴史にみられる課題を探究し、それらを他人に伝えられる力。					
	主体的に学習に取り組む態度	我が国の歴史の諸事象について、課題の最適解を探究し、よりよい社会の実現を視野に未来の自分を創造しようとする力。					
使用教科書	高校日本史(山川出版社)		使用副教材	歴史資料館 日本史のライブラリー(とうほう)			

年間学習計画	前期	時間	後期	時間
	第1章 日本文化のあけぼの 1. 日本文化の始まり 2. 農耕の開始 3. 歴史資料と原始・古代の展望	12	第1回考査	第4章 貴族政治の展開 1. 摂関政治 2. 国風文化 3. 荘園の発達と武士団の成長
第2章 古墳とヤマト政権 1. 古墳文化の展開 2. 飛鳥の朝廷	10	第2回考査	第5章 院政と武士の進出 1. 院政の始まり 2. 院政と平氏政権 3. 歴史資料と中世の展望	12
第3章 律令国家の形成 1. 律令国家への道 2. 平城京の時代 3. 律令国家の文化 4. 律令国家の変容	12	第3回考査	第6章 武家政権の成立 1. 鎌倉幕府の成立と展開 2. モンゴル襲来と幕府の衰退 3. 鎌倉文化	12
合 計				70

履修要件	1. 上記の教材や必要に応じて指示された物を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2. 欠課時数が規定の授業時数の1/5以内であること。	
修得要件	1. 上記、履修要件の項目を満たすこと。 2. 実施するすべての定期考査を受験し、課題等の提出を求められた場合は期限内に済ませること。 3. 年間評価が10段階で「2」以上であること。	
評価の方法	知識・技能	定期考査・課題提出による。(50%程度)
	思考・判断・表現	定期考査・課題提出およびアセスメント(振り返りシート)による。(30%程度)
	主体的に学習に取り組む態度	出席状況、授業への取り組み、ルーブリックおよびアセスメント(振り返りシート)による。(20%程度)
学習にあたっての注意とアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎時間の授業が基本になります。欠席をせず、毎時間の授業のなかで小さなことでもよいので新たな発見や理解を積み重ねてください。</li> <li>・教科書の内容を網羅することは難しいので、わからないことは自分で調べたり質問したりしてください。</li> <li>・共通テストなど、日本史探究を受験科目の1つとして使おうとする場合は、「歴史総合・日本史探究」の組み合わせ(共通テストの場合)になるので、歴史総合の範囲を含めて、個人個人での用語集や問題集の購入などを視野に入れ、自学自習もおこなっていくことが必要になってきます(冊子の紹介はする予定です)。</li> </ul>	

教科	数学	科目名	数学Ⅱ	年次	2年	単位数	4
履修区分	<input type="checkbox"/> 必履修 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択		選択条件	1年次に「数学Ⅰ」を履修していること。			
対象者	<input checked="" type="checkbox"/> 四大文系 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 四大理系 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 教養 ・ <input type="checkbox"/> 就職準備		<input checked="" type="checkbox"/> 文理 ・ <input type="checkbox"/> 経ビ ・ <input type="checkbox"/> もの ・ <input type="checkbox"/> 全員				

学習目標	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについて理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を培うとともに、それらを活用する態度を養う。						
目指す資質・能力	知識・技能	初等解析学の基本的な概念や内容を理解することで、人間と世界についての豊かな知識と技能を身に付ける。					
	思考・判断・表現	身近な事象を数学化し、知識を活用して思考する力を養う。					
	主体的に学習に取り組む態度	どのような学習問題に対しても真摯に取り組み、試行錯誤を続け、自己調整する力を養う。					
使用教科書	数学Ⅱ Standard(東京書籍)			使用副教材	WIDE 数学Ⅱ+B(東京書籍)		

	前 期		時間	後 期		時間
	年間学習計画	第1章 式と証明 多項式・分数式の計算 2次方程式 高次方程式 式と証明	第1回考査	40	第3章 三角関数 三角関数 加法定理	第4回考査
		第2回考査		第4章 指数関数と対数関数 指数関数 対数関数		15
第2章 図形と方程式 点と直線 円 軌跡と領域		第3回考査	30	第5章 微分と積分 微分の考え 積分の考え	学年末考査	25
				合 計		140

履修要件	1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。	
修得要件	以下の観点を総合して100点満点で評点をつける。評点が25点以上を取得すること。 1 定期考査および課題（知識・技能、思考・判断・表現） 2 授業への出席や取り組む姿勢（主体的に学習に取り組む態度）	
評価の方法	知識・技能	定期考査・課題提出による。
	思考・判断・表現	定期考査・課題提出、アセスメント(振り返りシート)やルーブリックによる。
	主体的に学習に取り組む態度	出席状況、授業への取り組み、課題提出、アセスメント(振り返りシート)やルーブリックによる
学習にあたっての注意とアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・欠席をせず、毎時間の授業に集中して取り組もう。</li> <li>・予習よりも復習のほうが大切なため、その日に学習した練習問題を家で毎日1問以上解こう。</li> <li>・以下の学習をすると力がついていきます。</li> <li>①「公式を覚える」のために”例”や”例題”を解く</li> <li>②「公式の使い方」を増やすために”例題”を解く</li> <li>③「入試に向けた基本的な解法を覚える」ために”応用例題”や”章末問題”を解く</li> </ul>	



教科	数学	科目名	数学B	年次	2年	単位数	2
履修区分	<input type="checkbox"/> 必履修 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択		選択条件	文理系列選択者で、1年次に「数学A」を履修していることが望ましい。			
対象者	<input checked="" type="checkbox"/> 四大文系 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 四大理系		<input type="checkbox"/> 教養 ・ <input type="checkbox"/> 就職準備	<input checked="" type="checkbox"/> 文理 ・ <input type="checkbox"/> 経ビ ・ <input type="checkbox"/> もの ・ <input type="checkbox"/> 全員			

学習目標	確率分布と統計的な推測、数列について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を養う。						
目指す資質・能力	知識・技能	統計学や代数学の基本的な概念や内容を理解することで、人間と世界についての豊かな知識と技能を身に付ける。					
	思考・判断・表現	身近な事象を数学化し、知識を活用して思考する力を養う。					
	主体的に学習に取り組む態度	どのような学習問題に対しても真摯に取り組み、試行錯誤を続け、自己調整する力を養う。					
使用教科書	数学B Standard(東京書籍)			使用副教材	WIDE 数学Ⅱ+B(東京書籍)		

	前 期	時間	後 期	時間	
	年間学習計画	第2章 統計的な推測 母集団と標本 確率分布 確率変数の平均と分散の性質 確率変数の和と積 二項分布 正規分布 母平均の推定 仮説検定	35	第1章 数列 数列 等差数列 等差数列の和 等比数列 等比数列の和 数列の和と記号 $\Sigma$ いろいろな数列 漸化式 数学的帰納法	35
		第1回考査		第4回考査	
		第2回考査			
		第3回考査		学年末考査	
				合 計	70

履修要件	1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。	
修得要件	以下の観点を総合して100点満点で評点をつける。評点が25点以上を取得すること。 1 定期考査および課題（知識・技能、思考・判断・表現） 2 授業への出席や取り組む姿勢（主体的に学習に取り組む態度）	
評価の方法	知識・技能	定期考査・課題提出による。
	思考・判断・表現	定期考査・課題提出、アセスメント(振り返りシート)やルーブリックによる。
	主体的に学習に取り組む態度	出席状況、授業への取り組み、課題提出、アセスメント(振り返りシート)やルーブリックによる
学習にあたっての注意とアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・欠席をせず、毎時間の授業に集中して取り組もう。</li> <li>・予習よりも復習のほうが大切なため、その日に学習した練習問題を家で毎日1問以上解こう。</li> <li>・以下の学習をすると力がついていきます。</li> <li>①「公式を覚える」のために”例”や”例題”を解く</li> <li>②「公式の使い方」を増やすために”例題”を解く</li> <li>③「入試に向けた基本的な解法を覚える」ために”応用例題”や”章末問題”を解く</li> </ul>	

教科	数学	科目名	実用数学	年次	2年	単位数	2
履修区分	<input type="checkbox"/> 必履修 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択		選択条件	「数学Ⅰ」および「数学A」を履修していることが望ましい。			
対象者	<input type="checkbox"/> 四大文系 ・ <input type="checkbox"/> 四大理系 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 教養 ・ <input type="checkbox"/> 就職準備		<input type="checkbox"/> 文理 ・ <input type="checkbox"/> 経ビ ・ <input checked="" type="checkbox"/> もの ・ <input type="checkbox"/> 全員				

学習目標	単に数学の知識・技能を身につけるだけでなく、数学的な活動を通して定義や公式の意味を理解し、身のまわりの事象に活用することで、数学の有用性に気づき、主体的に学習に取り組む態度を養う。						
目指す資質・能力	知識・技能	工業科目に必要な数学の基本的な概念や内容を理解することで、基本的な計算技能を身につける。					
	思考・判断・表現	身近な事象を数学化し、知識を活用して思考する力を養う。					
	主体的に学習に取り組む態度	どのような学習問題に対しても真摯に取り組み、試行錯誤を続け、自己調整する力を養う。					
使用教科書	数学Ⅱ Essence (東京書籍)			使用副教材			

年間学習計画	前 期	時間	後 期	時間
	方程式とその変形 方程式の変形 方程式の解法	35	高次方程式と複素数 複素数の定義 複素数の演算	35
指数法則と普遍単位 指数法則と計算 指数と単位	第1回考査	n進数 10進数→n進数 n進数→10進数	第4回考査 学年末考査	
図形の面積と体積 平面図形の面積 空間図形の表面積と体積	第2回考査			
三角関数 弧度法と度数法 三角比の拡張 測量				
ベクトル スカラーとベクトル ベクトルの演算	第3回考査			
		合 計	70	

履修要件	1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。	
修得要件	以下の観点を経合して100点満点で評点をつける。評点が25点以上を取得すること。 1 定期考査および課題 (知識・技能、思考・判断・表現) 2 授業への出席や取り組む姿勢 (主体的に学習に取り組む態度)	
評価の方法	知識・技能	定期考査・課題提出による。
	思考・判断・表現	定期考査・課題提出、アセスメント(振り返りシート)やルーブリックによる。
	主体的に学習に取り組む態度	出席状況、授業への取り組み、課題提出、アセスメント(振り返りシート)やルーブリックによる。
学習にあたっての注意とアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> <li>欠席をせず、毎時間の授業に集中して取り組もう。</li> <li>予習よりも復習のほうが大切なため、その日に学習した練習問題を家で毎日1問以上解こう。</li> <li>以下の学習をすると力がついていきます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>①「公式を覚える」のために”例”や”例題”を解く</li> <li>②「公式の使い方」を増やすために”例題”を解く</li> </ul> </li> </ul>	

教科	理科	科目名	科学と人間生活	年次	2年	単位数	2
履修区分	<input type="checkbox"/> 必履修 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択		選択条件	【文理系列】選択 【びも】全員			
対象者	<input type="checkbox"/> 四大文系 ・ <input type="checkbox"/> 四大理系 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 教養 ・ <input type="checkbox"/> 就職準備		<input checked="" type="checkbox"/> 文理 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 経ビ ・ <input checked="" type="checkbox"/> もの ・ <input type="checkbox"/> 全員				

学習目標	自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成することを目指す。		
目指す資質・能力	知識・技能	自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりについての理解を深め、科学的に探求するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付ける。	
	思考・判断・表現	観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて科学的に探究し、知識を活用して思考する力。	
	主体的に学習に取り組む態度	自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探求しようとする態度を養うとともに、学んだことが未来につながることを想像することで、科学に対する興味関心が高まっている。	
使用教科書	第一学習社『高等学校 科学と人間生活』	使用副教材	

年間学習計画	前 期	時間	後 期	時間
	第1編 科学技術の発展 情報伝達技術の発展 エネルギー資源の活用と交通手段の発展 医療技術の発展 科学技術の発展に関する科学館・博物館	5	第3章 生命の科学 第1節 生物と光 環境要因としての光 ヒトの視覚と光	15
第2編 人間生活の中の科学 第1章 物質の科学 第1節 材料とその性質 プラスチックと人間生活 金属と人間生活 第2節 衣料と食品 身近な繊維 食品中の主な成分と性質	15	第1回考査	第2節 微生物とその応用 さまざまな微生物 発酵	15
第2章 熱や光の科学 第1節 熱の性質とその利用 温度と熱運動 エネルギーの移り変わり 第2節 光の性質とその利用 光の発生と速さ、電磁波の種類と性質	15	第2回考査	第4章 地球や宇宙の科学 第1節 身近な自然景観と自然災害 日本列島の景観 火山災害と防災 第2節 身近な天体と太陽系における地球 太陽系の構造と広がり 天体の動き	15
			第3編 これからの科学と人間生活 第1章 課題設定と研究の進め方 第2章 課題例	5
			学年末考査	
			合 計	70

履修要件	1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。		
修得要件	1 上記 履修要件の項目を満たすこと。 2 実施する定期考査を受験し、課題等の提出をすること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。		
評価の方法	知識・技能	定期考査・課題(実験レポート)提出等による。	
	思考・判断・表現	定期考査・課題(実験レポート)提出およびアセスメント(振り返りシート)やルーブリック等による。	
	主体的に学習に取り組む態度	出席状況、授業への取り組みおよびアセスメント(振り返りシート)やルーブリック等による。	
学習にあたっての注意とアドバイス	授業中に基本的な事項を理解し、覚えることが大切です。そのためにも、授業に集中して取り組み、ノートをきちんととって下さい。また、定期考査には十分な準備をして臨むようにし、頭の中を整理する機会にしましょう。特に授業中に配布されたプリントは理解できるまで、何度も思考を重ねると良いでしょう。		

教科	理科	科目名	物理基礎(文理・も)		年次	2 年	単位数	2
履修区分	<input type="checkbox"/> 必履修 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択		選択条件	【文理系列】選択				
対象者	<input type="checkbox"/> 四大文系 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 四大理系		<input type="checkbox"/> 教養	<input type="checkbox"/> 就職準備	<input checked="" type="checkbox"/> 文理 ・ <input type="checkbox"/> 経ビ ・ <input checked="" type="checkbox"/> もの ・ <input type="checkbox"/> 全員			

学習目標	自然の事物・現象に関することを題材にして、基本的な概念、原理、法則を理解する。現代科学の基礎をなす物理の基本法則を学び、理解することによって、現代社会をより広い視野で捉え、的確な判断を下すことができるようになる。なお、大学入試にも対応できるよう基礎学力の養成を目指す。		
目指す資質・能力	知識・技能	日常生活や社会との関連を図りながら、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能(力)を身につけるようにする。	
	思考・判断・表現	観察、実験などを行い、自ら問いをたてて科学的に探究する力。	
	主体的に学習に取り組む態度	学びに真摯に取り組むことで、物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。	
使用教科書	第一学習社『高等学校 改訂 物理基礎』	使用副教材	第一学習社『セミナー物理基礎』

前 期		時間	後 期		時間
年間学習計画	第1章 力と運動	25	第3章 波動	20	20
	第1節 物体の運動		第1節 波の性質		
	速度 加速度 落下運動		波の表し方と波の要素 波の重ね合わせ		
	第2節 力のはたらきとつりあい	10	第2節 音波	15	15
	さまざまな力		音波の性質		
	力の合成・分解とつりあい		物体の振動		
第3節 運動の法則	10	第4章 電気	15	15	
運動の3法則		第1節 静電気と電流			
運動方程式の利用		静電気 電流と抵抗 電気エネルギー			
第2章 エネルギー	10	第2節 電流と磁場	15	15	
第1節 仕事と力学的エネルギー		磁場・モーターと発電機			
仕事と仕事率		第3節 エネルギーとその利用			
運動・位置・力学的エネルギー		太陽エネルギーと化石燃料 原子力エネルギー			
第2節 熱とエネルギー	10	合 計		70	
熱と温度					
エネルギーの変換と保存					

履修要件	1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。	
修得要件	1 上記 履修要件の項目を満たすこと。 2 実施する定期考査を受験し、課題等の提出をすること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。	
評価の方法	知識・技能	定期考査・課題(実験レポート)提出等による。
	思考・判断・表現	定期考査・課題(実験レポート)提出およびアセスメント(振り返りシート)やルーブリック等による。
	主体的に学習に取り組む態度	出席状況、授業への取り組みおよびアセスメント(振り返りシート)やルーブリック等による。
学習にあたっての注意とアドバイス	授業中に基本的な事項を理解し、覚えることが大切です。そのためにも、授業に集中して取り組み、ノートをきちんととって下さい。また、定期考査には十分な準備をして臨むようにし、頭の中を整理する機会にしましょう。特に授業中に配布されたプリントは理解できるまで、何度も思考を重ねると良いでしょう。	

教科	理科	科目名	化学(2年)	年次	2年	単位数	2
履修区分	<input type="checkbox"/> 必履修 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択		選択条件	2・3年次における「化学」は継続履修である。2年次に「化学」を履修した生徒は、3年次も「化学」を選択すること。			
対象者	<input type="checkbox"/> 四大文系 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 四大理系		<input type="checkbox"/> 教養	<input type="checkbox"/> 就職準備	<input checked="" type="checkbox"/> 文理 ・ <input type="checkbox"/> 経ビ ・ <input type="checkbox"/> もの ・ <input type="checkbox"/> 全員		

学習目標	自然の事物・現象に関することを題材にして、基本的な概念、原理、法則を理解すること。自然を構成する物質の成り立ちや性質、変化などを学ぶことにより、現代社会をより広い視野で捉え、的確な判断を下すことができるようになること。なお、大学入試にも対応できるよう基礎学力の養成を目指す。						
目指す資質・能力	知識・技能	化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能(力)を身につけるようにする。					
	思考・判断・表現	観察、実験などを行い、知識を活用することで科学的に探究する力。					
	主体的に学習に取り組む態度	学びに真摯に取り組むことで、化学的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。					
使用教科書	第一学習社『高等学校 改訂 化学』			使用副教材	第一学習社『セミナー化学基礎・化学』		

年間学習計画	前 期		時間	後 期		時間
	第1章 物質の状態	第1節 化学結合と結晶	5	第4節 化学平衡	可逆反応と化学平衡	10
	第2節 物質の三態と熱運動	5		平衡定数	第4回考査	
	物質の三態とその辺り	第1回考査		第5節 電離平衡	5	
	飽和用気圧と蒸気圧曲線			電離平衡		
	第3節 気体の性質	10		弱酸・弱塩基の電離平衡		
	気体の体積変化	第2回考査		塩の性質と反応		
	気体の状態方程式			緩衝液と緩衝作用		
	第4節 溶液の性質	5		溶解度積	学年末考査	
	希薄溶液の性質	第3回考査				
	コロイド					
第2章 物質の変化と平衡	第1節 物質とエネルギー	10				
	反応熱と熱化学方程式	第3回考査				
	ヘスの法則					
	結合エネルギー					
	第2節 電池・電気分解	10				
	第3節 化学反応の速さ	10				
	反応速度					
	触媒					
				合 計	70	

履修要件	1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。						
修得要件	1 上記 履修要件の項目を満たすこと。 2 実施する定期考査を受験し、課題等の提出をすること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。						
評価の方法	知識・技能	定期考査・課題(実験レポート)提出等による。					
	思考・判断・表現	定期考査・課題(実験レポート)提出およびアセスメント(振り返りシート)やルーブリック等による。					
	主体的に学習に取り組む態度	出席状況、授業への取り組みおよびアセスメント(振り返りシート)やルーブリック等による。					
学習にあたっての注意とアドバイス	授業中に基本的な事項を理解し、覚えることが大切です。そのためにも、授業に集中して取り組み、ノートをきちんととって下さい。また、定期考査には十分な準備をして臨むようにし、頭の中を整理する機会にしましょう。特に授業中に配布されたプリントは理解できるまで、何度も思考を重ねると良いでしょう。						

教科	理科	科目名	生物基礎	年次	2年	単位数	2
履修区分	<input type="checkbox"/> 必履修 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択		選択条件	【文理系列】選択			
対象者	<input checked="" type="checkbox"/> 四大文系 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 四大理系 ・ <input type="checkbox"/> 教養 ・ <input type="checkbox"/> 就職準備		<input checked="" type="checkbox"/> 文理 ・ <input type="checkbox"/> 経ビ ・ <input type="checkbox"/> もの ・ <input type="checkbox"/> 全員				

学習目標	生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成することを目指す。なお、大学入試にも対応できるよう基礎学力の養成を目指す。						
目指す資質・能力	知識・技能	日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにす					
	思考・判断・表現	観察、実験などを行い、唯一解がなくても科学的に最適解を判断する力。					
	主体的に学習に取り組む態度	学びに真摯に取り組むことで、生物や生物現象に主体的に関わり、試行錯誤を続けながら科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し自然環境の保全に寄与する態度を養う。					
使用教科書	第一学習社『高等学校 改訂 生物基礎』			使用副教材	第一学習社『セミナー生物基礎』		

年間学習計画	前 期		時間	後 期		時間
	第1章 生物の特徴	第1節 生物の多様性と共通性	11	第2節 体内環境の維持とそのしくみ	自律神経系と内分泌系による調節	10
	生物の多様性		第3節 生体防御	免疫に関わる細胞と器官		
	生物・細胞の共通性と多様性の起源		自然免疫と獲得免疫	免疫と医療		
	第2節 細胞とエネルギー		第4章 植生の多様性と分布		12	
	代謝とエネルギー・酵素		第1節 植生と遷移	植生とその遷移		
	ミトコンドリアと葉緑体の起源	第1回考査	第2節 バイオームとその分布	世界のバイオームと日本のバイオーム		
第2章 遺伝子とその働き	第1節 遺伝子の本体の構造	12	第5章 生態系とその保全		14	
	遺伝子の本体－DNAとその構造		第1節 生態系	生態系の成り立ち		
	第2節 遺伝情報の複製と分配		生態系の成り立ち	生態系内の物質循環とエネルギーの流れ		
	細胞周期		第2節 生態系のバランスと保全	生態系のバランス		
	第3節 遺伝情報とタンパク質の合成		人間活動による生態系への影響	生態系の保全	学年末考査	
	遺伝情報とタンパク質		生態系の保全			
	タンパク質とその合成	第2回考査	合 計		70	
第3章 生物の体内環境	第1節 体内環境とその働き	11				
	体内環境と恒常性					
	体液成分の濃度調節と肝臓の働き					

履修要件	1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。	
修得要件	1 上記 履修要件の項目を満たすこと。 2 実施する定期考査を受験し、課題等の提出をすること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。	
評価の方法	知識・技能	定期考査・課題(実験レポート)提出等による。
	思考・判断・表現	定期考査・課題(実験レポート)提出およびアセスメント(振り返りシート)やルーブリック等による。
	主体的に学習に取り組む態度	出席状況、授業への取り組みおよびアセスメント(振り返りシート)やルーブリック等による。
学習にあたっての注意とアドバイス	授業中に基本的な事項を理解し、覚えることが大切です。そのためにも、授業に集中して取り組み、ノートをきちんととって下さい。また、定期考査には十分な準備をして臨むようにし、頭の中を整理する機会にしましょう。特に授業中に配布されたプリントは理解できるまで、何度も思考を重ねると良いでしょう。	

教科	外国語	科目名	英語コミュニケーションⅡ	年次	2年	単位数	4
履修区分	<input type="checkbox"/> 必履修 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択		選択条件	1年次に英語コミュニケーションⅠを履修していること			
対象者	<input checked="" type="checkbox"/> 四大文系 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 四大理系		<input type="checkbox"/> 教養 ・ <input type="checkbox"/> 就職準備	<input checked="" type="checkbox"/> 文理 ・ <input type="checkbox"/> 経ビ ・ <input type="checkbox"/> もの ・ <input type="checkbox"/> 全員			

学習目標	外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成する。						
目指す資質・能力	知識・技能	外国語で実際に聞くこと、読むこと、書くこと、話すことの実験を通して、人間と世界についての豊かな知識と技能を身につける。					
	思考・判断・表現	目的や場面、状況などに応じて、外国語の知識を活用して情報や考えなどを的確に理解したり、考察の核心を伝え合ったりできるようにする。					
	主体的に学習に取り組む態度	学びに真摯に取り組む学びの自己調整をする力と、外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。					
使用教科書	BIG DIPPER English Communication Ⅱ		使用副教材	単語帳DataBase3000			

年間学習計画	前 期	時間	後 期	時間
	Lesson 1 Why Don't You Come to School in Pajamas?			Lesson 6 Wakayama Masako: The World's Oldest Game App Developer
Lesson 2 Is Seeing Believing?			Lesson 7 Learnig from Nature パフォーマンステスト	
Lesson 3 Do You Get Enough Sleep?		第1回考査	Lesson 8 The Wisdom of Preserving Food	第4回考査
Lesson 4 Do You Want to Speak English like a Native Speaker? パフォーマンステスト		第2回考査	Lesson 9 The Sharing Economy: Something for Everyone?	
Lesson 5 Universal Design: Convenient for All			Lesson 10 Sand and Concrete: A Basis of Our Life	
Lesson 6 Wakayama Masako: The World's Oldest Game App Developer パフォーマンステスト		第3回考査	総まとめ パフォーマンステスト	学年末考査
		70	合 計	140

履修要件	1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以下であること。	
修得要件	1 上記履修要件の項目を全て満たすこと。 2 実施する全ての定期考査、パフォーマンステストを受験し、課題等の提出を期限内にすること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。	
評価の方法	知識・技能	小テスト、定期考査、パフォーマンステストによる。
	思考・判断・表現	定期考査、パフォーマンステストとアセスメント(振り返りシート)による。
	主体的に学習に取り組む態度	出席状況、授業への取り組み及びアセスメント(振り返りシート)による。
学習にあたっての注意とアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレットを毎時間必ず持参し、分からない単語があればすぐに調べること。</li> <li>・積極的に英語を使って自分のことを表現したり、他者のことを理解したりしようとする。</li> <li>・教科書の予習・復習や定期的な実施する単語テストなどに向けて、学習習慣を確立すること。</li> </ul>	

教科	外国語	科目名	論理・表現Ⅱ	年次	2年	単位数	2
履修区分	<input type="checkbox"/> 必履修 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択		選択条件	1年次に論理・表現Ⅰを履修していること			
対象者	<input checked="" type="checkbox"/> 四大文系 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 四大理系		<input type="checkbox"/> 教養	<input type="checkbox"/> 就職準備	<input checked="" type="checkbox"/> 文理 ・ <input type="checkbox"/> 経ビ ・ <input type="checkbox"/> もの ・ <input type="checkbox"/> 全員		

学習目標	論理・表現Ⅰの学習内容に加え、基本的な文法及び語法を学びながら、他者とのやり取り・発表・まとまりのある英文を書くという活動を通じて、英語での表現力を身につける。						
目指す資質・能力	知識・技能	外国語で実際に聞くこと、読むこと、書くこと、話すことの経験を通して、人間と世界についての豊かな知識と技能を身につける。					
	思考・判断・表現	目的や場面、状況などに応じて、外国語の知識を活用して情報や考えなどを的確に理解したり、考察の核心を伝え合ったりする力。					
	主体的に学習に取り組む態度	学びに真摯に取り組み学びの自己調整をする力と、外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度。					
使用教科書	BIG DIPPER English Logic and Expression I・II			使用副教材	BIG DIPPER English Logic and Expression I・II レッスンブック		

年間学習計画	前 期		時間	後 期		時間
	Lesson 16 比較(Ⅰ)		10	Lesson1		15
Lesson 17 比較(Ⅱ)		Lesson2				
Seminar Page		Lesson3				
Lesson18 関係詞(Ⅰ)		Lesson4				
Lesson19 関係詞(Ⅱ)(Ⅲ)		10	Lesson5		10	
Seminar Page			Lesson6			
Lesson20 仮定法(Ⅰ)(Ⅱ)			Lesson7			
Lesson21 接続詞			15			
Further Step						
						70

履修要件	1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以下であること。	
修得要件	1 上記履修要件の項目を全て満たすこと。 2 実施する全ての定期考査、パフォーマンステストを受験し、課題等の提出を期限内にすること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。	
評価の方法	知識・技能	小テスト、定期考査、パフォーマンステストによる。
	思考・判断・表現	定期考査、パフォーマンステストとアセスメント(振り返りシート)による。
	主体的に学習に取り組む態度	出席状況、授業への取り組み及びアセスメント(振り返りシート)による。
学習にあたっての注意とアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> <li>辞書を毎時間必ず持参し、分からない単語があればすぐに調べること。</li> <li>積極的に英語を使って自分のことを表現したり、他者のことを理解したりしようとする。</li> <li>教科書の予習・復習や定期的な実施する単語テストなどに向けて、学習習慣を確立すること。</li> </ul>	



教科	外国語	科目名	グローバルスタディーズ	年次	2年	単位数	2
履修区分	<input type="checkbox"/> 必履修 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択		選択条件				
対象者	<input type="checkbox"/> 四大文系 ・ <input type="checkbox"/> 四大理系 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 教養 ・ <input type="checkbox"/> 就職準備		<input checked="" type="checkbox"/> 文理 ・ <input type="checkbox"/> 経ビ ・ <input type="checkbox"/> もの ・ <input type="checkbox"/> 全員				

学習目標	海外の文化や歴史などの話題に関するまとまりのある英文を読んで、情報や考えなどを的確に理解したり、適切に表現したり伝え合ったりすることにより、実用的な英語運用能力と主体的に異文化を理解しようとする態度を育成する。						
目指す資質・能力	知識・技能	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を深め、聞くこと、読むこと、書くこと、話すことを実際のコミュニケーションにおいて適切に活用できる技能を身につける。					
	思考・判断・表現	目的や場面、状況などに応じて、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、適切に伝え合ったりできるようにする。					
	主体的に学習に取り組む態度	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。					
使用教科書				使用副教材	Watching World		

年間学習計画	前 期	時間	後 期	時間
	Unit 1 Food Culture in China			Unit 9 British Boarding Schools
Unit 2 Multiethnic Singapore			Unit 10 Land of Fire and Ice	
		第1回考査		
Unit 3 Unique Australian English			Unit 11 Japanese Immigrants to Brazil	
Unit 4 The Ganges				第4回考査
Unit 5 Turkish Cuisine		第2回考査	Unit 12 Day of the Dead	
Unit 6 Ramadan			Unit 13 The U.S.A. and its states	
Unit 7 Kenya, Leading Mobile Money Country				
Unit 8 Onion Domes of Russian Churches		第3回考査		学年末考査
		35	合 計	35
				70

履修要件	1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以下であること。	
修得要件	1 上記履修要件の項目を全て満たすこと。 2 実施する全ての定期考査を受験し、課題等の提出を期限内にすること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。	
評価の方法	知識・技能	定期考査、課題等による。
	思考・判断・表現	定期考査、課題、パフォーマンステストによる(スピーキング・ライティング)。
	主体的に学習に取り組む態度	出席状況、課題の提出、授業への取り組み及びアセスメント(振り返りシート)による。
学習にあたっての注意とアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> <li>辞書を毎時間必ず持参し、分からない単語があればすぐに調べること。</li> <li>積極的に英語を使って自分のことを表現したり、他者のことを理解したりしようとする。</li> <li>教科書の予習・復習や定期考査に向けて、学習習慣を確立すること。</li> </ul>	

教科	外国語	科目名	商業英語	年次	2年	単位数	2
履修区分	<input checked="" type="checkbox"/> 必履修 ・ <input type="checkbox"/> 選択		選択条件				
対象者	<input type="checkbox"/> 四大文系 ・ <input type="checkbox"/> 四大理系 ・ <input type="checkbox"/> 教養 ・ <input type="checkbox"/> 就職準備		<input type="checkbox"/> 文理 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 経ビ ・ <input type="checkbox"/> もの ・ <input type="checkbox"/> 全員				

学習目標	外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成する。		
目指す資質・能力	知識・技能	外国語で実際に聞くこと、読むこと、書くこと、話すことの実験を通して、人間と世界についての豊かな知識と技能を身につける。	
	思考・判断・表現	目的や場面、状況などに応じて、外国語の知識を活用して情報や考えなどを的確に理解したり、考察の核心を伝え合ったりできるようにする。	
	主体的に学習に取り組む態度	学びに真摯に取り組む学びの自己調整をする力と、外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。	
使用教科書	BIG DIPPER English Communication II	使用副教材	単語帳DataBase3000

年間学習計画	前 期	時間	後 期	時間
	Lesson 1 Why Don't You Come to School in Pajamas? パフォーマンステスト	第1回考査	35	Lesson 8 The Wisdom of Preserving Food パフォーマンステスト
Lesson 2 Is Seeing Believing? パフォーマンステスト	第2回考査	35	Lesson 10 Sand and Concrete: A Basis of Our Life 総まとめ パフォーマンステスト	学年末考査
Lesson 6 Wakayama Masako: The World's Oldest Game App Developer パフォーマンステスト	第3回考査	35		
			合 計	70

履修要件	1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以下であること。		
修得要件	1 上記履修要件の項目を全て満たすこと。 2 実施する全ての定期考査、パフォーマンステストを受験し、課題等の提出を期限内にすること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。		
評価の方法	知識・技能	小テスト、定期考査、パフォーマンステストによる。	
	思考・判断・表現	定期考査、パフォーマンステストとアセスメント(振り返りシート)による。	
	主体的に学習に取り組む態度	出席状況、授業への取り組み及びアセスメント(振り返りシート)による。	
学習にあたっての注意とアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレットを毎時間必ず持参し、分からない単語があればすぐに調べること。</li> <li>・積極的に英語を使って自分のことを表現したり、他者のことを理解したりしようとする。</li> <li>・教科書の予習・復習や定期的な実施する単語テストなどに向けて、学習習慣を確立すること。</li> </ul>		

教科	家庭	科目名	フードデザイン	年次	2年	単位数	4
履修区分	<input type="checkbox"/> 必履修 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択		選択条件				
対象者	<input type="checkbox"/> 四大文系 ・ <input type="checkbox"/> 四大理系 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 教養 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 就職準備		<input checked="" type="checkbox"/> 文理 ・ <input type="checkbox"/> 経ビ ・ <input type="checkbox"/> もの ・ <input type="checkbox"/> 全員				

学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養・食品・調理・献立などについて系統的に理解し、関連する技術を身につける。</li> <li>・食生活の現状を知り、食に関わる課題を発見し、合理的、創造的に解決したいと考えられるようになる。</li> <li>・食生活向上と併せて、身近な地域に目を向け地域の食文化を知り、習得できる。</li> </ul>						
目指す資質・能力	知識・技能	食生活を主体的に営むために必要な基礎的な知識を理解し、技術を活用できる力を養う。					
	思考・判断・表現	食生活を主体的に営むために知識を活用して思考する力、根拠に基づいて理論的に改善、解決しようとする力を養う。					
	主体的に学習に取り組む態度	食生活を主体的に捉え、学んだことが未来につながることを想像する力、周囲と協働してよりよい生活を創造するための実践的な態度を養う。					
使用教科書	フードデザイン 新訂版(実教出版)			使用副教材	ニュービジュアル家庭科資料+成分表(実教出版)		

前 期		時間	後 期		時間
年間学習計画	オリエンテーション	1	ライフステージと栄養計画		25
	調理の基本 概量・切り方・用具	11	乳児期 幼児期 学童期 青年期	第3回考査	
	栄養素の働きと食事計画 からだのしくみと食べ物	25	成年期 高齢期 調理実習		
	炭水化物 脂質 たんぱく質 無機質 ビタミン 調理実習		食育 食育の意義と推進活動 調理実習	第4回考査	20
	食品の特徴・表示・安全 食品の特徴と性質 調理実習	25	料理様式とテーブルコーディネート 料理様式と献立 実習		20
	献立作成 行事食・郷土食	8	1年間のまとめ	学年末考査	5
			合 計		140

履修要件	1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。	
修得要件	1 上記 履修要件を満たすこと。 2 実施するすべての定期考査を受験し、課題等の提出を期限内にすること。 3 考査と提出物の合計点が、年間で全体の平均の2分の1以下にならないこと。	
評価の方法	知識・技能	定期考査・課題提出・実習態度による。
	思考・判断・表現	定期考査・課題提出・実習態度およびアセスメント(振り返りシート)による。
	主体的に学習に取り組む態度	出席状況、授業への取り組みおよび生活への関心、アセスメント(振り返りシート)による。
学習にあたっての注意とアドバイス	欠席をしない。 自分で課題意識を持ち、毎時間の授業に集中して取り組もう。 どんな生活を作りたいか想像しながら取り組もう。 提出物は期限を守り、必ず提出する。 授業内容の定着のための努力をする。 (施設設備の都合上、実習の実施時期が変更になる可能性もある)	

教科	保健体育	科目名	体育	年次	2年	単位数	2
履修区分	<input checked="" type="checkbox"/> 必履修 ・ <input type="checkbox"/> 選択		選択条件				
対象者	<input type="checkbox"/> 四大文系 ・ <input type="checkbox"/> 四大理系 ・ <input type="checkbox"/> 教養 ・ <input type="checkbox"/> 就職準備		<input type="checkbox"/> 文理 ・ <input type="checkbox"/> 経ビ ・ <input type="checkbox"/> もの ・ <input checked="" type="checkbox"/> 全員				

学習目標	運動の特性に触れる楽しさや喜びを味わえるように、自ら考えたり工夫して運動を実戦するとともに、健康の保持増進のための実践力を身につける。						
目指す資質・能力	知識・技能	・競技に求められる運動特性などを理解し、人間と世界についての豊かな知識と技能を身に付ける					
	思考・判断・表現	・生涯にわたって運動を豊かに継続するため、知識を活用して思考する力 ・自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて自ら問いをたてて探求する力					
	主体的に学習に取り組む態度	・ルールやマナーを守り、学びに真摯に取り組む力 ・一人一人の違いを認め、他者をリスペクトして協働する力					
使用教科書	現代高等保健体育(大修館書店)			使用副教材	現代高等保健体育ノート(大修館書店)		

	前 期	時間	後 期	時間
	年間学習計画	オリエンテーション・体ならし 体力づくり(ランニング) クラスマッチに向けて 体づくり運動 新体力テストを活用して運動計画を立てよう 体育理論 運動・スポーツの学び方 球技① 男子:サッカー 女子:バドミントン 体育理論 運動スポーツの学び方 球技② 男子:バドミントン 女子:サッカー	8 7 1 12 2 12	陸上競技 長距離走 球技③ クラスマッチに向けて 体育理論 運動・スポーツの学び方 選択 男女混合選択 体育理論 運動・スポーツの学び方
合 計			70	

履修要件	1 授業のルールを守り、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。						
修得要件	1 上記 履修要件の項目を満たすこと。 2 課題等の提出を期限内にすること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。						
評価の方法	知識・技能	・スキルテスト、ゲーム中の動き方 ・筆記テスト(体育理論)					
	思考・判断・表現	・「振り返りシート」への記入内容 ・自己や他者・周囲への気付き					
	主体的に学習に取り組む態度	・欠席、遅刻、忘れ物の回数 ・準備・片付け、他者との協力の様子 ・運動量					
学習にあたっての注意とアドバイス	・実技科目であるため、出席し、積極的に活動することが重要である。運動技能のみならず、服装や集団行動、仲間とのコミュニケーションなど総合的に評価する。 ・記載されている実施種目は、受講生の特性や新型コロナウイルスの感染拡大状況等に合わせて変更する場合がある。						

教科	保健体育	科目名	保健	年次	2年	単位数	1
履修区分	<input checked="" type="checkbox"/> 必履修 ・ <input type="checkbox"/> 選択		選択条件				
対象者	<input type="checkbox"/> 四大文系 ・ <input type="checkbox"/> 四大理系 ・ <input type="checkbox"/> 教養 ・ <input type="checkbox"/> 就職準備		<input type="checkbox"/> 文理 ・ <input type="checkbox"/> 経ビ ・ <input type="checkbox"/> もの ・ <input checked="" type="checkbox"/> 全員				

学習目標	生涯を通じて明るく豊かで活力のある生活を営むために、個人及び社会における健康・安全について理解を深め、自他や社会における健康課題を発見し、合理的に解決する方法を実践したり他者に伝える能力を身につける。					
目指す資質・能力	知識・技能	「現代社会と健康」、「安全な社会生活」、「生涯を通じる健康」、「健康を支える環境づくり」にかかわる用語等を理解し、人間と世界についての豊かな知識と技能を身に付ける				
	思考・判断・表現	「現代社会と健康」、「安全な社会生活」、「生涯を通じる健康」、「健康を支える環境づくり」にかかわる事象から課題を発見し、自ら問いをたてて探求する力				
	主体的に学習に取り組む態度	学習内容を実生活や社会の動きに重ね合わせ、未来の自分を創造する力				
使用教科書	現代高等保健体育(大修館書店)		使用副教材	現代高等保健体育ノート(大修館書店)		

年間学習計画	前 期	時間	後 期	時間
	<b>【1単元】現代社会と健康</b> 精神疾患の特徴 精神疾患の予防 精神疾患からの回復 現代の感染症 感染症の予防 性感染症・エイズとその予防 健康に関する意思決定・行動選択 健康に関する環境づくり <b>【2単元】安全な社会生活</b> 事故の現状と発生要因 安全な社会の形成 交通における安全 <b>【3単元】生涯を通じる健康</b> 結婚生活と健康 中高年期と健康 <div style="text-align: right;">第3回考査</div>	18	<b>【3単元】生涯を通じる健康</b> 働くことと健康 労働災害と健康 健康的な職業生活 <b>【4単元】健康を支える環境づくり</b> 大気汚染と健康 水質汚濁、土壌汚染と健康 健康と環境にかかわる対策 ごみの処理と上下水道の整備 食品の安全性 食品衛生にかかわる活動 保健サービスとその活用 医療サービスとその活用 医薬品の制度とその活用 さまざまな保健活動や社会的対策 健康に関する環境づくりと社会参加 <div style="text-align: right;">学年末考査</div>	17
	合 計			35

履修要件	1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。	
修得要件	1 上記 履修要件の項目を満たすこと。 2 実施するすべての定期考査を受験し、課題等の提出を期限内にすること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。	
評価の方法	知識・技能	・定期考査・提出課題
	思考・判断・表現	・「保健ノート」の取り組み内容 ・定期考査・各種課題の取り組み内容
	主体的に学習に取り組む態度	・欠席、遅刻、早退、忘れ物の回数 ・授業への取り組みの様子
学習にあたっての注意とアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業ノートの提出を定期的に行っているため、板書の書き取りや穴埋め問題などをしっかりと行い、積極的に授業に参加すること。</li> <li>・保健は1単位の授業で年間授業数が少ないため、欠課数が基準を超えないように十分に気を付けること。</li> </ul>	

教科	芸術	科目名	美術Ⅱ	年次	2年	単位数	2
履修区分	<input type="checkbox"/> 必履修 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択		選択条件	美術Ⅰを修得した者に限る			
対象者	<input type="checkbox"/> 四大文系 ・ <input type="checkbox"/> 四大理系 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 教養		<input type="checkbox"/> 就職準備	<input checked="" type="checkbox"/> 文理 ・ <input type="checkbox"/> 経ビ ・ <input type="checkbox"/> もの ・ <input type="checkbox"/> 全員			

学習目標	美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化についての理解を深める。創作や鑑賞などの体験を通して感性を高め、個性豊かな創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。						
目指す資質・能力	知識・技能	美術の歴史や文化、時代・民族・風土・宗教の相違や共通性を考察し、対象を観察して表現する活動を通して人間と世界についての豊かな知識と技能を身に付ける。					
	思考・判断・表現	表現の目的や意図に応じて、知識を活用して思考する力。自然、自己、社会などを深く見つめて、自ら問いをたてて探究する力。					
	主体的に学習に取り組む態度	主題に合った表現方法を工夫して、創造的に表現できるよう試行錯誤を続ける力。					
使用教科書	高校生の美術2(日本文教出版)			使用副教材	なし		

	前 期	時間	後 期	時間
年間学習計画	デザイン 文化祭ポスター制作 鑑賞	12	グループ制作(現代アート) 「カクダイ」段ボールで日用品を拡大してつくる	15
	絵画 鑑賞 自然をとらえる	12	絵画・ポスターコンペ 選択した公募展へ作品を制作し出品する	20
	立体 ペーパークラフトで基本立体をつくる 日用品の縮小マケットをペーパークラフトでつくる	11		
	合 計			70

履修要件	1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。	
修得要件	1 上記 履修要件の項目を満たすこと。 2 完成した課題の提出を期限内にすること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。	
評価の方法	知識・技能	授業への取り組みの様子、提出課題及びアセスメント(振り返りシート)による。
	思考・判断・表現	授業への取り組みの様子、提出課題及びアセスメント(振り返りシート)による。
	主体的に学習に取り組む態度	出席状況、授業への取り組みの様子、提出課題及びアセスメント(振り返りシート)による。
学習にあたっての注意とアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・欠席をせず、毎時間の授業に集中して取り組もう。</li> <li>・自分自身で考え、常により良い表現を求めて試行錯誤しよう。</li> <li>・上手いかわない時こそ、考えること・行動することを続けよう。</li> <li>・自分以外の人の表現や助言にも心を傾けよう。</li> <li>・作品は必ず完成させたものを提出すること。作品未提出者は、補習を行う。</li> <li>・制作物は展示を行います。他の人に見てもらいたいと思えるよう、こだわりをもった取り組みをしよう。</li> </ul>	

教科	音楽	科目名	音楽Ⅱ	年次	2年	単位数	2
履修区分	<input type="checkbox"/> 必履修 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択		選択条件	音楽Ⅰを修得していること。			
対象者	<input type="checkbox"/> 四大文系 ・ <input type="checkbox"/> 四大理系 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 教養 ・ <input type="checkbox"/> 就職準備		<input checked="" type="checkbox"/> 文理 ・ <input type="checkbox"/> 経ビ ・ <input type="checkbox"/> もの ・ <input type="checkbox"/> 全員				

学習目標	音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を養う。						
目指す資質・能力	知識・技能	音楽と文化的・歴史的背景などの関わりや、音楽の多様性を深く理解し、人間と世界についての豊かな知識と技能を身につける。					
	思考・判断・表現	自分の持ち味を生かした音楽表現について考え、知識を活用して思考する力。音楽を評価しながらよさや美しさを深く味わって聴く力。					
	主体的に学習に取り組む態度	音楽の諸活動のなかで感性を高め、音楽文化に親しみ、学びを生かして未来の自分を創造する力。また、上手くいかない原因を追求する自己回復力を養う。					
使用教科書	MOUSA2(教育芸術社)			使用副教材	なし		

	前 期	時間	後 期	時間
年間学習計画	【歌唱】 早春賦 ハナミズキ 椰子の実 糸	12	【歌唱】 浜辺の歌 フニクリ・フニクラ(イタリア歌曲) 合唱曲	10
	【器楽】 三線「涙そうそう」	8	【器楽】 リコーダー「愛のテーマ」	8
	【鑑賞】 バレエ「白鳥の湖」 西洋音楽	12	【鑑賞】 世界の諸民族の音楽 能 狂言	12
			【音楽史】 バロック～古典派(鑑賞に合わせて)	8
			合 計	70

履修要件	1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。						
修得要件	1 上記 履修要件の項目を満たすこと。 2 実施するすべての筆記試験・実技試験を受験し、課題等の提出を期限内にすること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。						
評価の方法	知識・技能	授業への取り組み(学習プリントを含む)及び、筆記試験・実技試験による。					
	思考・判断・表現	授業への取り組み(学習プリントを含む)及び、筆記試験・実技試験による。					
	主体的に学習に取り組む態度	授業への取り組み及び、振り返りシートによる。					
学習にあたっての注意とアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査は実施しないが、授業内で単元ごとに試験を実施する。</li> <li>・歌唱や器楽等の実技は練習を積み重ねることが大切である。欠席をせず、毎時間の授業に集中して取り組むこと。</li> <li>・普段から自国や諸外国の文化や歴史について関心を持ち、自身の感性を磨くこと。</li> </ul>						

教科	音楽	科目名	音楽表現基礎	年次	2年	単位数	2
履修区分	<input type="checkbox"/> 必履修 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択		選択条件	選択条件はないが、専門的な内容を扱うこともあるので音楽を必要とする進学者は履修することが望ましい。			
対象者	<input type="checkbox"/> 四大文系 ・ <input type="checkbox"/> 四大理系	<input checked="" type="checkbox"/> 教養	<input type="checkbox"/> 就職準備	<input checked="" type="checkbox"/> 文理	<input type="checkbox"/> 経ビ	<input type="checkbox"/> もの	<input type="checkbox"/> 全員

学習目標	音楽系大学・短大・専門学校や保育・福祉など、音楽を必要とする進学に対応出来る技能と知識を身につける。						
目指す資質・能力	知識・技能	音感や読譜力など、すべての分野の音楽に共通する人間と世界についての豊かな知識と技能。					
	思考・判断・表現	音楽理論を理解したうえで楽譜を正しく読み、それを歌唱や器楽で表現し、知識を生かして試行する力。					
	主体的に学習に取り組む態度	分からないところや苦手なところをそのままにせず、自ら質問したり、上手いかない原因を追求する学びを自己調整する力。					
使用教科書	なし			使用副教材	なし		

前 期		時間	後 期		時間
年間学習計画	オリエンテーション	1	【音楽理論】 音階 調性 コードネーム	合計	19
	【音楽理論】 楽譜の書き方 譜表、拍子、音符と休符 音名 音程	15	【ソルフェージュ】 コールユープンゲン リズム視唱 新曲視唱		
	【ソルフェージュ】 コールユープンゲン リズム視唱 新曲視唱		20	【実技演習】 ハンドベル	15
	【実技演習】 キーボード 童謡弾き歌い	合 計		70	

履修要件	1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。	
修得要件	1 上記 履修要件の項目を満たすこと。 2 実施するすべての筆記試験・実技試験を受験し、課題等の提出を期限内にすること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。	
評価の方法	知識・技能	授業への取り組み(学習プリントを含む)及び、筆記試験・実技試験による。
	思考・判断・表現	授業への取り組み(学習プリントを含む)及び、筆記試験・実技試験による。
	主体的に学習に取り組む態度	授業への取り組み及び、振り返りシートによる。
学習にあたっての注意とアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査は実施しないが、授業内で単元ごとに試験を実施する。</li> <li>・分からないことをそのままにせず、質問したり自ら調べて理解に努めること。</li> <li>・実技は練習を積み重ねることが大切である。欠席をせず、毎時間の授業に集中して取り組むこと。</li> <li>・音楽系及び保育系進学希望者は、ピアノの個人レッスンの受講を推奨する。保育士や幼稚園教諭の採用試験におけるピアノの実技試験では一定程度のレベルが求められるため、なるべく早いうちから対策をすることが望ましい。相談にも乗ります。</li> </ul>	



教科	情報	科目名	情報 I	年次	2 年	単位数	2
履修区分	<input checked="" type="checkbox"/> 必履修 ・ <input type="checkbox"/> 選択		選択条件				
対象者	<input type="checkbox"/> 四大文系 ・ <input type="checkbox"/> 四大理系 ・ <input type="checkbox"/> 教養 ・ <input type="checkbox"/> 就職準備		<input type="checkbox"/> 文理 ・ <input type="checkbox"/> 経ビ ・ <input type="checkbox"/> もの ・ <input checked="" type="checkbox"/> 全員				

学習目標	情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を育成することを目指す。						
目指す資質・能力	知識・技能	効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解し、技能を身に付けているとともに、情報社会と人との関わりについて理解する力。					
	思考・判断・表現	様々な事象を情報とその結びつきとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力。					
	主体的に学習に取り組む態度	情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようと努力する姿勢。					
使用教科書	高等学校 情報 I (数研出版)			使用副教材	高等学校 情報 I サポートノート(数研出版)		

	前 期		時間	後 期		時間	
	年間学習計画	1. コミュニケーションと情報デザイン 情報のデジタル表現 コミュニケーション手段の発展と特徴 情報デザイン プレゼンテーション		7	4. 情報社会の問題解決 情報とメディア 情報社会における法とセキュリティ 情報技術が社会に及ぼす影響		1
			2			2	
			5			1	
第2回考査			2	学年末考査			
2. コンピュータとプログラミング コンピュータのしくみ プログラミング① プログラミング② モデル化とシミュレーション			2				
		第3回考査	18				
			18				
3. 情報通信ネットワークとデータ活用 ネットワークのしくみ データベース データの分析			2				
			3				
			5				
合 計						70	

履修要件	1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。	
修得要件	1 上記 履修要件の項目を満たすこと。 2 実施するすべての定期考査を受験し、課題等の提出を期限内にすること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。	
評価の方法	知識・技能	定期考査・課題提出による。
	思考・判断・表現	定期考査・課題提出およびアセスメント(振り返りシート)による。
	主体的に学習に取り組む態度	出席状況、授業・課題への取り組みおよびアセスメント(振り返りシート)による。
学習にあたっての注意とアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・欠席をせず、毎時間の授業に集中して取り組もう。</li> <li>・情報機器(ソフトウェアも含む)の取り扱いに慣れよう。</li> <li>・毎時間「これが分かった」を重ねよう。</li> <li>・グループワークではメンバーと協力し、積極的に取り組もう。</li> <li>・課題は必ず期限内に提出しよう。</li> </ul>	

教科	工業	科目名	工業技術基礎	年次	2年	単位数	4
履修区分	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択		選択条件	ものづくり系列選択者で、継続して系列選択をする者			
対象者	<input type="checkbox"/> 四大文系 <input type="checkbox"/> 四大理系 <input checked="" type="checkbox"/> 教養 <input checked="" type="checkbox"/> 就職準備		<input type="checkbox"/> 文理 <input type="checkbox"/> 経ビ <input checked="" type="checkbox"/> もの <input type="checkbox"/> 全員				

学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>電気工事实習、テスターの製作実習を通して電気に関するいろいろな特性を学習する。</li> <li>金属加工の実習を通してその技術を習得し、知識を深める。</li> <li>機械加工実習を通して、作業の安全の知識を深める。</li> </ul>						
目指す資質・能力	知識・技術	工業に関する基礎的技術を実験・実習によって体験させ意欲的に取り組める力。					
	思考・判断・表現	唯一解がなくても最適解を判断する力。					
	主体的に学習に取り組む態度	学んだことが未来につながることを想像する力。					
使用教科書	機械実習1・2、工業技術基礎			使用副教材	配付テキスト		

	前 期		時間	後 期		時間
	年間学習計画	オリエンテーション		2	機械加工②	
機械加工① 旋盤Ⅰ・旋盤の基礎			24	旋盤Ⅱ 旋盤による作品製作		
制御実習			20	レーザー加工機		20
PIC入門			25	PIC初級 PICマイコンボードによる制御		25
合 計						140

履修要件	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。</li> <li>2. 欠課時数が年間授業数の1/5以内であること。</li> </ol>						
修得要件	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 上記 履修要件の項目を満たすこと。</li> <li>2. 実施するすべての定期考査を受検し、レポートの提出を期限内に行うこと。</li> <li>3. 年間評価が10段階で「2」以上であること。</li> </ol>						
評価の方法	知識・技術	作品製作・レポート提出による。					
	思考・判断・表現	作品製作・レポート提出時の口頭試問およびアセスメント(振り返りシート)による。					
	主体的に学習に取り組む態度	出席状況、授業への取り組み、アセスメント(振り返りシート)による。					
学習にあたっての注意とアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的に授業へ取り組むことが重要です。</li> <li>・毎時間に行うことが決まっているため、欠席した場合には、どんな理由であろうとも次回実習までに追実習を受けること。</li> <li>・全ての実習に出席し、レポートが期限までに出されることで成績が認定される。</li> </ul>						

教科	工業	科目名	実習	年次	2年	単位数	2
履修区分	<input type="checkbox"/> 必履修 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択		選択条件	ものづくり系列選択者で、継続して系列選択をする者			
対象者	<input type="checkbox"/> 四大文系 ・ <input type="checkbox"/> 四大理系 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 教養 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 就職準備		<input type="checkbox"/> 文理 ・ <input type="checkbox"/> 経ビ ・ <input checked="" type="checkbox"/> もの ・ <input type="checkbox"/> 全員				

学習目標	工業の各専門分野に関する技術を実際の作業を通して総合的に習得させ、技術革新に主体的に対応できる能力と態度を育てる。						
目指す資質・能力	知識・技術	安全に配慮される中で興味や関心、進路希望などに沿った実習内容に取り組み、問題解決ができる力をつける。					
	思考・判断・表現	唯一解がなくても最適解を判断する力。					
	主体的に学習に取り組む態度	学んだことが未来につながることを想像する力。					
使用教科書	機械実習1・2			使用副教材	配付テキスト		

年間学習計画	前 期	時間	後 期	時間
	オリエンテーション(安全教育) 計測実習(電気)		2 10	金属加工(手仕上げによる文鎮の製作)
電気実習(機械)		10	テスタ製作	14
製図基礎		10	電気工事士	14
回路製作		10		
			合 計	70

履修要件	1. 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2. 欠課時数が年間授業数の1/5以内であること。	
修得要件	1. 上記 履修要件の項目を満たすこと。 2. 実施するすべての定期考査を受検し、レポートの提出を期限内に行うこと。 3. 年間評価が10段階で「2」以上であること。	
評価の方法	知識・技術	作品製作・レポート提出による。
	思考・判断・表現	作品製作・レポート提出時の口頭試問およびアセスメント(振り返りシート)による。
	主体的に学習に取り組む態度	出席状況、授業への取り組み、アセスメント(振り返りシート)による。
学習にあたっての注意とアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> <li>積極的に授業へ取り組むことが重要です。</li> <li>毎時間に行うことが決まっているため、欠席した場合には、どんな理由であろうとも次回実習までに追実習を受けること。</li> <li>全ての実習に出席し、レポートが期限までに出されることで成績が認定される。</li> </ul>	

教科	工業	科目名	機械工作	年次	2年	単位数	4
履修区分	<input type="checkbox"/> 必履修 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択		選択条件	ものづくり系列選択者			
対象者	<input type="checkbox"/> 四大文系 ・ <input type="checkbox"/> 四大理系 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 教養 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 就職準備		<input type="checkbox"/> 文理 ・ <input type="checkbox"/> 経ビ ・ <input checked="" type="checkbox"/> もの ・ <input type="checkbox"/> 全員				

学習目標	機械工作に関する基礎的な知識と技術を理解し、ものづくりに応用できる力を身につける。 機械のしくみや機械をつくる技術を自然法則と関連付けて考察し、科学的、工学的思考力を養う。 機械工作を機械材料、計測、生産管理を総合技術として学び、実際に活用する能力と態度を身につける。						
目指す資質・能力	知識・技術	基本的な機械材料や加工方法の知識を学び、社会的背景や需要に合わせた新しい知識を取り入れる力。					
	思考・判断・表現	学習したことがどこで使われるのか、自らの考えを探究し続け、その考えを他者に伝える力を養う。					
	主体的に学習に取り組む態度	機械工学の基礎を学び、学習したことが未来につながることを想像する力。					
使用教科書	前期：機械工作1(実教出版) 後期：機械工作2(実教出版)			使用副教材	授業担当者が作成した資料		

年間学習計画	前 期		時間	後 期		時間
	第1章 工業計測と測定用機器		10	第6章 切削加工		18
第2章 機械材料		26	切削加工の分類			
材料の機械的性質			主な工作機械と切削工具			
金属の結晶と加工性			切削工具と切削条件			
鉄鋼材料			切削理論			
非鉄金属材料			工作機械の構成と駆動装置	第4回考査		
非金属材料			第7章 砥粒加工		12	
各種の材料	第1回考査		砥粒加工の分類			
第3章 鋳造		10	砥石車			
第4章 溶接		12	いろいろな研削			
第5章 塑性加工		16	遊離砥粒による加工			
塑性加工の分類			第8章 特殊加工と三次元造形技術		12	
素材の加工	第2回考査		第9章 表面処理		12	
プレス加工			第10章 生産計画・管理と生産効率化		12	
鍛造				学年末考査		
その他の塑性加工						
型を用いた成形法	第3回考査					
			合 計		140	

履修要件	1. 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2. 欠課時数が年間授業数の1/5以内であること。	
修得要件	1. 上記 履修要件の項目を満たすこと。 2. 実施するすべての定期考査を受検し、課題等の提出を期限内に行うこと。 3. 年間評価が10段階で「2」以上であること。	
評価の方法	知識・技術	定期考査・課題提出およびルーブリックによる。
	思考・判断・表現	定期考査・課題提出・アセスメント(振り返りシート)およびルーブリックによる。
	主体的に学習に取り組む態度	出席状況、授業への取り組み、アセスメント(振り返りシート)による。
学習にあたっての注意とアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業で説明された事柄と関係深いことを身のまわりや日常の中を探し出し、再確認をする。</li> <li>・授業を単体の科目でとらえるのではなく他教科や科目と関連付けて学習する態度をもつ。</li> </ul> (例：工業技術基礎・数学科目・国語科目など)	

教科	工業	科目名	電気回路	年次	2年	単位数	4
履修区分	<input type="checkbox"/> 必履修 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択		選択条件	ものづくり系列選択者			
対象者	<input type="checkbox"/> 四大文系 ・ <input type="checkbox"/> 四大理系	<input checked="" type="checkbox"/> 教養 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 就職準備	<input type="checkbox"/> 文理 ・ <input type="checkbox"/> 経ビ ・ <input checked="" type="checkbox"/> もの ・ <input type="checkbox"/> 全員				

学習目標	工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うなどを通して、電気現象を量的に取り扱うことに必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
目指す資質・能力	知識・技術	電気回路について電氣的諸量の相互関係を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	
	思考・判断・表現	知識を活用して思考する力 唯一解がなくても最適解を判断する力	
	主体的に学習に取り組む態度	学びに真摯に取り組む力 学んだことが未来につながることを想像する力	
使用教科書	精選電気回路(実教出版)	使用副教材	自作プリント

	前 期		後 期	
		時間		時間
年間学習計画	第1章 電気回路の要素		第4章 電流と磁気	
	1節 電気回路の電流と電圧	4	1節 磁石とクーロンの法則	6
	演習	3	演習	4
	2節 電気回路を構成する素子	6	2節 電流による磁界	4
	演習	5	演習	3
			3節 磁界中の電流に働く力	4
	第2章 直流回路		演習	2
	1節 直流回路の計算	12	第4回考査	
	演習	6	4節 電磁誘導	6
	2節 消費電力と発生熱量	6	5節 直流電動機と直流発電機	2
	演習	4		
	3節 電流の化学作用と電池	4	第5章 交流回路	
			1節 正弦波交流	4
	第3章 静電気		2節 複素数	4
	1節 電荷とクーロンの法則	6	演習	4
	演習	4	3節 記号法による交流回路の計算	8
	2節 コンデンサ	5	4節 共振回路	4
	演習	4	5節 交流回路の電力	4
			6節 三相交流	6
		演習	6	
		学年末考査		
			140	

履修要件	1. 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2. 欠課時数が年間授業数の1/5以内であること。	
修得要件	1. 上記 履修要件の項目を満たすこと。 2. 実施するすべての定期考査を受検し、課題等の提出を期限内に行うこと。 3. 年間評価が10段階で「2」以上であること。	
評価の方法	知識・技術	定期考査・課題提出による。
	思考・判断・表現	定期考査・課題提出およびアセスメント(振り返りシート)による。
	主体的に学習に取り組む態度	出席状況、授業への取り組み、アセスメント(振り返りシート)による。
学習にあたっての注意とアドバイス	・毎時間の授業において、ノート・プリントをしっかりと取ること。 ・提出物や課題は必ず期日までに仕上げること。	

教科	商業	科目名	簿記	年次	2年	単位数	4
履修区分	<input type="checkbox"/> 必履修 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択		選択条件	経営ビジネス系列選択者は必履修科目です。			
対象者	<input type="checkbox"/> 四大文系 ・ <input type="checkbox"/> 四大理系 ・ <input type="checkbox"/> 教養 ・ <input type="checkbox"/> 就職準備		<input type="checkbox"/> 文理 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 経ビ ・ <input type="checkbox"/> もの ・ <input type="checkbox"/> 全員				

学習目標	簿記に関する知識と技術を習得し、その基本的な仕組みについて理解するとともに、適正な会計処理を行う能力と態度を育てる。						
目指す資質・能力	知識・技能	企業における会計処理を学び、人間と世界についての豊かな知識と技能を身に付ける。					
	思考・判断・表現	会計処理の手法や会計制度および法の理解のうえで、会計情報を適切に整理・表示し、知識を活用して思考する力					
	主体的に学習に取り組む態度	学習内容を社会の動きと重ね合わせ、学んだことが未来につながることを想像する力					
使用教科書	新簿記(実教出版)			使用副教材	最新段階式 日商簿記検定問題集(実教出版)		

年間学習計画	前 期	時間	後 期	時間
	第1編 簿記の基礎 1章 簿記の基礎 2章 資産・負債・純資産と貸借対照表 3章 収益・費用と損益計算書 4章 取引と勘定 5章 仕訳と転記 6章 仕訳帳と総勘定元帳 7章 試算表 8章 精算表 9章 決算 <b>第1回考査</b>	30	第3編 決算(その1) 18章 決算整理(その1) 19章 8桁精算表 20章 帳簿決算 第4編 会計帳簿と帳簿組織 21章 会計帳簿 22章 伝票の利用 23章 会計ソフトウェアの活用 <b>第4回考査</b>	35
第2編 取引の記帳 10章 現金・預金などの取引 11章 商品売買の取引 12章 掛け取引 13章 手形の取引 <b>第2回考査</b> 14章 その他の債権・債務の取引 15章 固定資産の取引 16章 個人企業の資本の取引 17章 販売費と一般管理費、税金の取引 <b>第3回考査</b>	10 30	第5編 取引の記帳(その2) 24章 特殊な手形の取引 25章 有価証券の取引 26章 本支店会計 27章 最近の実務に広がる取引 第6編 決算(その2) 28章 決算整理(その2) 発展編 株式会社の取引 29章 株式会社の取引と財務諸表 <b>学年末考査</b>	35	
			合 計	140

履修要件	1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。	
修得要件	1 上記 履修要件の項目を満たすこと。 2 実施するすべての定期考査を受験し、課題等の提出を期限内にすること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。	
評価の方法	知識・技能	定期考査・課題提出による。
	思考・判断・表現	定期考査・課題提出およびアセスメント(振り返りシート)による。
	主体的に学習に取り組む態度	出席状況、授業への取り組みおよびニュースへの関心、アセスメント(振り返りシート)による。
学習にあたっての注意とアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・欠席をせず、毎時間の授業に集中して取り組もう。</li> <li>・ビジネスを学ぶ者として、身だしなみを整えて授業に臨もう。</li> <li>・毎時「これが分かった」を重ねよう。</li> <li>・知識の定着と検定試験の合格を目指そう。</li> </ul>	

教科	商業	科目名	原価計算	年次	2年	単位数	2
履修区分	<input type="checkbox"/> 必履修 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択		選択条件	経営ビジネス系列選択者の選択科目です。			
対象者	<input type="checkbox"/> 四大文系 ・ <input type="checkbox"/> 四大理系 ・ <input type="checkbox"/> 教養 ・ <input type="checkbox"/> 就職準備		<input type="checkbox"/> 文理 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 経ビ ・ <input type="checkbox"/> もの ・ <input type="checkbox"/> 全員				

学習目標	製造業における原価計算及び簿記に関する基本的な知識と技術を習得し、原価について理解するとともに、原価計算から得られる会計情報を活用する能力を習得する。						
目指す資質・能力	知識・技能	製造業における経営活動や製造活動、販売活動を学び、人間と世界についての豊かな知識と技能を身に付ける。					
	思考・判断・表現	製品製造のためにかかった計算の手法や会計制度および法の理解のうえで、会計情報を適切に整理・表示し、知識を活用して思考する力					
	主体的に学習に取り組む態度	学習内容を社会の動きと重ね合わせ、学んだことが未来につながることを想像する力					
使用教科書	原価計算(実教出版)			使用副教材	最新段階式簿記検定問題集1級 原価計算		

	前 期	時間	後 期	時間		
年間学習計画	原価計算の基礎 原価と原価計算 原価計算のあらまし 工業簿記	第1回考査	10	製品の完成・販売と決算 製品の完成と販売 決算と本社・工場間の取引	第4回考査	20
	原価の費目別計算 材料費の計算と記帳 労務費の計算と記帳 経費の計算と記帳	第2回考査	8	標準原価計算の基礎 標準原価計算(その1) 標準原価計算(その2)		
	原価の部門別計算と製品別計算 個別原価計算 部門別個別原価計算 総合原価計算 工程別総合原価計算 総合原価計算における減損・仕損じなど	第3回考査	12	直接原価計算の基礎 直接原価計算(その1) 直接原価計算(その2)	学年末考査	20
				合 計	70	

履修要件	1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。	
修得要件	1 上記 履修要件の項目を満たすこと。 2 実施するすべての定期考査を受験し、課題等の提出を期限内にすること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。	
評価の方法	知識・技能	定期考査・課題提出による
	思考・判断・表現	定期考査・課題提出およびアセスメント(振り返りシート)による。
	主体的に学習に取り組む態度	出席状況、授業への取り組みおよびアセスメント(振り替えシート)による
学習にあたっての注意とアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・欠席をせず、毎時間の授業に集中して取り組もう。</li> <li>・ビジネスを学ぶ者として、身だしなみを整えて授業に臨もう。</li> <li>・全商簿記検定1級も受験します。知識の定着と検定試験合格を目指そう。</li> </ul>	

教科	商業	科目名	マーケティング	年次	2年	単位数	2
履修区分	<input type="checkbox"/> 必履修 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択		選択条件	経営ビジネス系列選択者の必修科目です。			
対象者	<input type="checkbox"/> 四大文系 ・ <input type="checkbox"/> 四大理系 ・ <input type="checkbox"/> 教養 ・ <input type="checkbox"/> 就職準備		<input type="checkbox"/> 文理 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 経ビ ・ <input type="checkbox"/> もの ・ <input type="checkbox"/> 全員				

学習目標	商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、マーケティングに必要な資質・能力を目指す。						
目指す資質・能力	知識・技能	企業と消費者の行動を学び、その活動により人間と世界についての豊かな知識と技能を養う。					
	思考・判断・表現	知識を活用して思考する力をつけ、モノやサービスの動きを理解する。					
	主体的に学習に取り組む態度	学習内容を社会の動きと自ら重ね合わせ、学びに真摯に取り組む力や学んだことが未来につながることを想像する力を育む。					
使用教科書	マーケティング(実教出版)			使用副教材			

年間学習計画	前 期	時間	後 期	時間
	第1章 マーケティングの概要 マーケティングの歴史と発展 現代の市場とマーケティング マーケティング環境の分析 マーケティング・マネジメントの必要性	6	第5章 製品政策 製品政策の概要 新製品開発 販売計画と生産計画 製品政策の動向	12
第2章 消費者行動の理解 消費者の心理と行動の関係 購買意思決定過程 消費者行動に影響を与える要因	8	第6章 価格政策 価格政策の概要 価格の設定方法 価格政策の動向	12	
第3章 市場調査 市場調査の概要 市場調査の手順 仮説検証の手順 実態調査の方法	12	第7章 チャネル政策 プロモーション政策 プロモーションの種類 プロモーション政策の動向	10	
第4章 STP セグメンテーション ターゲティング ポジショニング	10			
			学年末考査	
			合計	70

履修要件	1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。						
修得要件	1 上記 履修要件の項目を満たすこと。 2 実施するすべての定期考査を受験し、課題等の提出を期限内にすること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。						
評価の方法	知識・技能	定期考査・課題提出による					
	思考・判断・表現	定期考査・課題提出およびアセスメント(振り返りシート)による。					
	主体的に学習に取り組む態度	出席状況、授業への取り組みおよびニュースへの関心、アセスメント(振り返りシート)による。					
学習にあたっての注意とアドバイス	・定期試験だけではなく、授業への取り組みや提出物についても評価の対象となるので、積極的に取り組むこと。 ・身だしなみを整え、授業に臨むこと。						



教科	商業	科目名	情報処理	年次	2年	単位数	4
履修区分	<input type="checkbox"/> 必履修 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択		選択条件	経営ビジネス系列選択者は必履修科目です。			
対象者	<input type="checkbox"/> 四大文系 ・ <input type="checkbox"/> 四大理系		<input type="checkbox"/> 教養 ・ <input type="checkbox"/> 就職準備	<input type="checkbox"/> 文理 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 経ビ ・ <input type="checkbox"/> もの ・ <input type="checkbox"/> 全員			

学習目標	ビジネスに関する情報を収集・処理・分析して表現し、活用する一連の活動を、情報セキュリティの確保や知的財産の保護などに留意し行うなど、企業における情報を適切に扱うための資質・能力を養う。						
目指す資質・能力	知識・技能	実務と関連付け、ビジネスの様々な場面で役に立つ情報かを想像しながら、収集・処理・分析・表現と活用に関する知識と技術を身に付け、情報を処理する力。					
	思考・判断・表現	学んだ知識や技術を活用し、情報を収集・処理・分析して課題を発見するとともに、科学的な根拠に基づいて工夫して最適な解を導き出し、よりよく解決する力。					
	主体的に学習に取り組む態度	学習内容を社会の動きと自らを重ねて学ぼうとする力。情報の収集と分析、ビジネス文書の作成、プレゼンテーションなどに責任を持って取り組む態度。					
使用教科書	最新情報処理(実教出版)			使用副教材	PASSPORT2021ビジネス情報部門2級(とうほう)情報処理検定模擬試験問題集ビジネス情報部門2級(実教出版)		

年間学習計画	前期	時間	後期	時間
	第4章 ビジネス文書の作成 1節 ビジネス文書と表現 2節 基本文書の作成 3節 応用文書の作成  ビジネス文書実務検定 第1章 情報の活用と情報モラル 1節 情報処理の重要性 2節 情報モラルと法規 3節 コミュニケーションと情報デザイン	30	第3章 情報の集計と分析 1節 ビジネスと統計 2節 関数を利用した表の作成 3節 グラフの作成 4節 情報の整列、検索、抽出 5節 問題の発見と解決方法	45
第2章 コンピュータシステムと情報通信ネットワーク 1節 コンピュータシステムの概要 2節 情報通信ネットワークのしくみと構成 3節 インターネットの活用 4節 情報セキュリティの確保	20	第5章 プレゼンテーション 1節 プレゼンテーションの技法 2節 ビジネスにおけるプレゼンテーション	25	
	20			
			合計	140

履修要件	1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。	
修得要件	1 上記 履修要件の項目を満たすこと。 2 実施するすべての定期考査を受験し、課題等の提出を期限内にすること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。	
評価の方法	知識・技能	定期考査・課題提出による。
	思考・判断・表現	定期考査・ワークシート・課題およびアセスメント(振り返りシート)による。
	主体的に学習に取り組む態度	出席状況、授業・実習への取り組み、アセスメント(振り返りシート)による。
学習にあたっての注意とアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・欠席をせず、毎時間の授業に集中して取り組もう。</li> <li>・ビジネスを学ぶ者として、身だしなみを整えて授業に臨もう。</li> <li>・毎時「これが分かった」を重ねよう。</li> <li>・全商ビジネス文書実務検定(7月・11月)、全商情報処理検定(9月・1月)を受験をします。知識の定着と検定試験の合格を目指そう。</li> </ul>	

教科	商業	科目名	ビジネス基礎	年次	2年	単位数	2
履修区分	<input type="checkbox"/> 必履修 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択		選択条件	経営ビジネス系列選択者の必修科目です。			
対象者	<input type="checkbox"/> 四大文系 ・ <input type="checkbox"/> 四大理系 ・ <input type="checkbox"/> 教養 ・ <input type="checkbox"/> 就職準備		<input type="checkbox"/> 文理 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 経ビ ・ <input type="checkbox"/> もの ・ <input type="checkbox"/> 全員				

学習目標	商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として基礎的な資質・能力を目指す。						
目指す資質・能力	知識・技能	ビジネスについて実務的に即して体系的・系統的に理解するとともに、人間と世界についての豊かな知識と技能を養う。					
	思考・判断・表現	知識を活用して思考する力をつけ、ビジネスに関する課題を発見しつつ、モノやサービスの動きを理解する。					
	主体的に学習に取り組む態度	学習内容を社会の動きと自ら重ね合わせ、学びに真摯に取り組む力や学んだことが未来につながることを想像する力を育む。					
使用教科書	ビジネス基礎(実教出版)			使用副教材			

年間学習計画	前 期	時間	後 期	時間
	第1章 商業の学習とビジネス いざ、ビジネスの世界へ 私たちの社会とビジネス	2	第4章 さまざまなビジネス ビジネスの種類 小売業 卸売業 物流業 金融業	8
第2章 ビジネスとコミュニケーション コミュニケーション ビジネスマナー	8	第5章 企業活動の基礎 ビジネスと企業	6	
第7章 ビジネス計算 ビジネス計算の基礎 ビジネス計算の応用	20	マーケティングの重要性 資金調達 財務諸表の役割 企業活動と税 雇用	8	
第3章 経済と流通の基礎 経済の仕組みとビジネス 経済活動と流通	6	第8章 身近な地域のビジネス さまざまな地域の魅力と課題 地域ビジネスの動向	12	
			学年末考査	
			合 計	70

履修要件	1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。	
修得要件	1 上記 履修要件の項目を満たすこと。 2 実施するすべての定期考査を受験し、課題等の提出を期限内にすること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。	
評価の方法	知識・技能	定期考査・課題提出による
	思考・判断・表現	定期考査・課題提出およびアセスメント(振り返りシート)による。
	主体的に学習に取り組む態度	出席状況、授業への取り組みおよびニュースへの関心、アセスメント(振り返りシート)による。
学習にあたっての注意とアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期試験だけではなく、授業への取り組みや提出物についても評価の対象となるので、積極的に取り組むこと。</li> <li>身だしなみを整え、授業に臨むこと。</li> </ul>	

教科	商業	科目名	ビジネス・コミュニケーション	年次	2年	単位数	2
履修区分	<input type="checkbox"/> 必履修 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択		選択条件	経営ビジネス系列選択者の選択科目です。			
対象者	<input type="checkbox"/> 四大文系 ・ <input type="checkbox"/> 四大理系 ・ <input type="checkbox"/> 教養 ・ <input type="checkbox"/> 就職準備		<input type="checkbox"/> 文理 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 経ビ ・ <input type="checkbox"/> もの ・ <input type="checkbox"/> 全員				

学習目標	商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスにおけるコミュニケーションに必要な資質・能力を育てる。		
目指す資質・能力	知識・技能	ビジネスにおけるコミュニケーションについて実務に即して体系的・系統的に理解する力。それに関連する技術。	
	思考・判断・表現	ビジネスにおけるコミュニケーションに関する課題を発見する力。ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力。	
	主体的に学習に取り組む態度	ビジネスを円滑に展開する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスにおいてコミュニケーションを図ることに主体的かつ協働的に取り組む態度・姿勢。	
使用教科書	ビジネスコミュニケーション(実教出版)	使用副教材	ビジネス・コミュニケーション 問題集(実教出版)

年間学習計画	前 期	時間	後 期	時間
	第2編 ビジネスマナー 応対に関するビジネスマナー 交際に関するビジネスマナー 第2回考査	20	第3編 ビジネスにおける思考の方法とコミュニケーション コミュニケーションの役割と思考方法 ビジネスにおけるコミュニケーション コミュニケーションとビジネススキル	32
第2編 ビジネスマナー 接客に関するビジネスマナー	6			
第1部 ビジネスとコミュニケーション 企業の組織と意思決定 第3回考査	12		学年末考査	
	合 計			70

履修要件	1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。		
修得要件	1 上記 履修要件の項目を満たすこと。 2 実施するすべての定期考査を受験し、課題等の提出を期限内にすること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。		
評価の方法	知識・技能	定期考査・課題提出による。	
	思考・判断・表現	定期考査・課題提出およびアセスメント(振り返りシート)による。	
	主体的に学習に取り組む態度	出席状況、授業への取り組みおよびニュースへの関心、アセスメント(振り返りシート)による。	
学習にあたっての注意とアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> <li>欠席をせず、毎時間の授業に集中して取り組もう。</li> <li>ビジネスを学ぶ者として、身だしなみを整えて授業に臨もう。</li> <li>毎時「これが分かった」を重ねよう。</li> <li>全商珠算電卓実務検定試験2級(1級)も受験します。知識の定着と検定試験の合格を目指そう。</li> </ul>		

教科	商業	科目名	課題研究	年次	2年	単位数	2
履修区分	<input type="checkbox"/> 必修修 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択		選択条件	経営ビジネス系列選択者は必修修科目です。			
対象者	<input type="checkbox"/> 四大文系 ・ <input type="checkbox"/> 四大理系 ・ <input type="checkbox"/> 教養 ・ <input type="checkbox"/> 就職準備		<input type="checkbox"/> 文理 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 経ビ ・ <input type="checkbox"/> もの ・ <input type="checkbox"/> 全員				

学習目標	商業に関する課題を設定し、その課題の解決を図る学習を通して、専門的な知識と技術の深化、総合化を図るとともに、問題解決の能力や自発的・創造的な学習態度を養う。				
目指す資質・能力	知識・技能	商業で学ぶ簿記・情報処理・マーケティングの知識を横断的・効果的に活用し、思考する力。			
	思考・判断・表現	地域および社会の課題に目を向け、それを解決する方策を考え、実行する力。課題解決についての考察の核心を伝える力。			
	主体的に学習に取り組む態度	物事を自らの課題と捉えて行動する力。地域の方々と接する際の挨拶・返事・会話等のコミュニケーションをとり、未来の地域社会を想像する力。			
使用教科書	なし		使用副教材	なし	

	前 期	時間	後 期	時間
年間学習計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 南木曾町・木曾を知る 〈これまでの学習例〉</li> <li>・ミツバつつじ祭におけるイベント運営補助</li> <li>・ミツバつつじ祭におけるアンケート調査</li> <li>・ミツバつつじ祭における「写真撮り隊」</li> <li>・茶摘みと茶の商品化</li> <li>・そばの栽培から販売までの一貫した取り組み (地域学習・播種・観察)</li> <li>・ふるさとCM大賞作品制作および応募</li> <li>・なぎのこマルシェ出店 (マーケティング調査)</li> <li>・蘇峽祭出店</li> <li>・地域小学校へプログラミング授業</li> </ul>	35	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 販売実習におけるビジネスの実践 〈これまでの学習例〉</li> <li>・そばの収穫・乾燥</li> <li>・そば打ち実習</li> <li>・ふれあい福祉まつり出店 (マーケティング調査)</li> <li>・南木曾町スローフードフェスタ出店</li> <li>・地域小学校へプログラミング授業</li> <li>(他科目で学習する内容を活用する)</li> <li>・マーケティング:顧客調査と動向分析</li> <li>・簿記:会計処理と報告書書類</li> <li>・原価計算:原価管理と販売計画</li> <li>・情報処理:データ集計と効果的な表現</li> <li>・ビジネス実務:接遇およびビジネス計算</li> </ul>	35
	合 計			70

履修要件	1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。		
修得要件	1 上記 履修要件の項目を満たすこと。 2 課題等の提出を期限内にすること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。		
評価の方法	知識・技能	他商業科目で学んだ事柄を結び付けて考えようとする姿勢、反省・感想等およびアセスメント(振り返りシート)による。	
	思考・判断・表現	他商業科目で学んだ事柄を結び付けて考えようとする姿勢、反省・感想等およびアセスメント(振り返りシート)による。	
	主体的に学習に取り組む態度	出席状況、授業への取り組みおよびイベント等での主体的取り組み、課題提出による。	
学習にあたっての注意とアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・欠席をせず、毎時間の授業に集中して取り組もう。</li> <li>・ビジネスを学ぶ者として、身だしなみを整えて授業に臨もう。</li> <li>・学んだことやニュース等を総合的に活用することが、「働き」・「生きる」ことにつながります。この授業は、自分が実際に社会でいるつもりで取り組もう。</li> </ul>		